

いたでしょうか。写真を撮ってあげばよかったです。残念です。

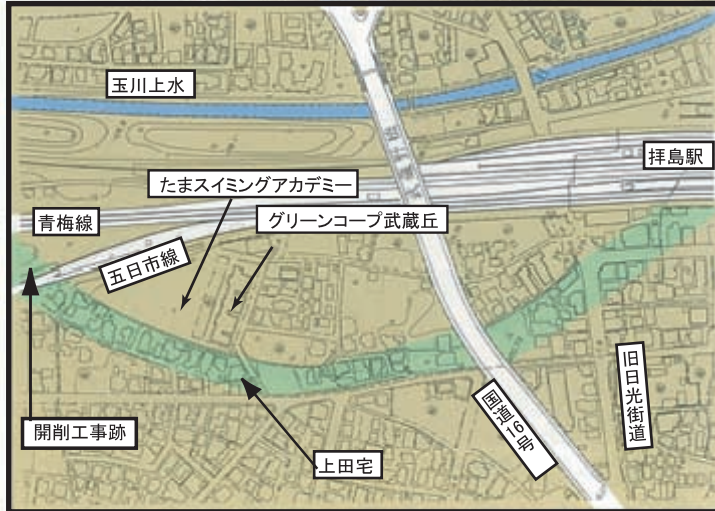
―地域の伝承と発掘成果で検証―

高崎 先ほどの府中の玉川上水堀跡に関しては、大國魂神社のあたりまで堀が行っている、という絵図面がでてきました。

玉川上水を掘ったところ失敗したので埋めました、などという銅板でも出てくればいいのですが、そんなことはあり得ません。「伝承と発掘成果が一緒になればその伝承は正しい」と結論づけていただけかなければいつまでたっても水かけ論です。正確な堀の目的があきらかにならないので玉川上水の堀跡だとは断言できない、というふうに関係の方は結論づけるのですが、伝承と実際のものである程度一緒になればこれが正しいと結論づけていかなければならないと私は思います。

※お二人の対談はさらにみずくらいどの謎に迫り、また長者堀伝説や千手院の石碑、そして水にまつわる言い伝えや子どもの頃の水くみの話などに広がりました。その内容については次号でお知らせいたします。お楽しみに！

注1 関東ローマ層のこと。熊川の地形をおおまかに分類すると、都営熊川アパートのある立川段丘面（立川面）を最上位に、その崖下の白梅分館のある拝島段丘面（拝島面）があり、そ



水喰土・玉川上水開削工事の跡位置図『福生歴史物語』（福生市史普及版）107Pから 図中の緑色の部分（場所の表記は白梅分館）

の崖下の南田園の低地面となつています。関東ローマ層（立川ローマ層とも言う）は立川面の表土の下に福生市内では最大2m(市営福生野球場付近)の層をつくっています。関東ローマ層の下は砂礫層（砂混じりの石）となつています。一方、拝島面には関東ローマ層はなく、表土の下は砂礫層です。

注2 『玉川上水起元并野火止村引取分水口之訳書』の略。上水完成149年後の享和3年（1803）、老中松平伊豆守信明の諮問を受け、水道奉行佐橋長門守佳如が千人同心の小島文平に依頼して書き上げさせたもので、玉川上水全般を開削工事に参加した時の家伝、その他里俗の伝承などをもとにまとめたもの。この中で府中での失敗やみずくらいどについて記されている。



米軍撮影の航空写真（昭和22年）写真提供：福生市郷土資料室（方位、場所の表記は白梅分館）

【参考文献】
『玉川上水「水喰土」伝承をめぐる諸説の検証。パネルディスプレイ』福生古文書研究会 平成19年9月1日
『みずくらいど3』福生市 昭和61年8月1日

『福生市史（上巻）』『同（下巻）』福生市 平成5年
『福生歴史物語（福生市史普及版）』福生市 平成11年
『福生市の文化財』福生市郷土資料室 平成15年